

Ⅱ 調査結果の概要

今期はマイナス幅が拡大するものの、来期は回復の兆しあり

1. 全体の概況

売上高と収益性を合せたD I 平均値(前年同期比)については▲20.1 となり、前回調査(27 年1-3 月期)の▲14.0 から 6.1 ポイント下降している。来期見通しにおいては、13.6 ポイント上昇して▲6.5 となる見通しになっている。

売上高D I (前年同期比)については▲18.2 となり、前回調査の▲10.5 から 7.7 ポイント下降している。来期見通しにおいては 14.5 ポイント上昇して▲3.7 となる見通しになっている。

収益性D I (前年同期比)については▲22.0 となり、前回調査の▲17.5 から 4.5 ポイント下降している。来期見通しにおいては 12.7 ポイント上昇して▲9.3 となる見通しになっている。

業況D I (前年同期比)については▲21.0 となり、前回調査の▲15.5 から 5.5 ポイント下降している。来期見通しにおいては 14.8 ポイント上昇して▲6.2 となる見通しになっている。

原材料価格D I (前期比)については「上昇」したとする企業が 27.0%、「下降」したとする企業が 4.3%で 22.7 となり、前回調査の 20.2 から 2.5 ポイント上昇している。

販売価格D I (前期比)については「上昇」したとする企業が 4.3%、「下降」したとする企業が 10.5%で▲6.2 となり、前回調査の 1.5 から 7.7 ポイント下降している。

資金繰りD I (前期比)については「好転」したとする企業が 4.2%、「悪化」したとする企業が 16.3%で▲12.1 となり、前回調査の▲9.5 から 2.6 ポイント下降している。

金融機関の態度D I (前期比)については「緩和」したとする企業が 5.7%、「硬化」したとする企業が 3.8%で 1.9 となり、前回調査の 0.0 から 1.9 ポイント上昇し緩和している。

設備投資実施率については 24.8%となり、前回調査より 0.6 ポイント上昇している。業種別で最も高い実施率となったのは「プラスチック製品」の 50.0%で、目的別では「増産」が 23.1%、次いで「品質向上」が 19.2%、「省エネ」が 13.5%、「コスト低減」が 7.7%となっている。

設備操業率D I (前期比)については「上昇」したとする企業が 8.7%、「下降」したとする企業が 22.1%で▲13.4 となり、前回調査の▲9.1 から 4.3 ポイント下降している。

全体の景況天気図は前回同様「小雨」が続いており、来期見通しにおいても「小雨」が続く見通しとなっている。

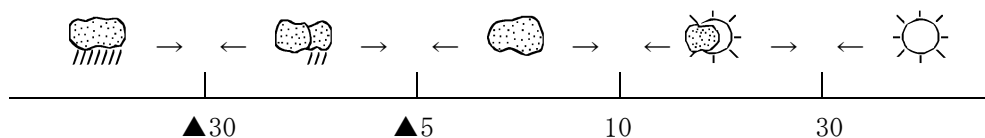
業種別に見ると「プラスチック製品」が 0.0 と「薄日」から「曇」、「食料品」が▲26.9 と「曇」から「小雨」、「金属・同製品」が▲33.4 と「小雨」から「雨」へ前回調査と比べそれぞれ悪化している。また、「窯業・土石製品」は▲7.2、「機械・機器」は▲13.7、「繊維・同製品」は▲17.9、「紙・加工品」は▲26.5 で「小雨」、「木材・木製品」は▲35.0 で「雨」となっており、それぞれ前回調査同様となっている。

来期見通しにおいては「機械・機器」、「窯業・土石製品」は「小雨」から「曇」、「金属・同製品」、「木材・木製品」は「雨」から「小雨」へそれぞれ回復。反面、「プラスチック製品」は「曇」から「小雨」、「紙・加工品」は「小雨」から「雨」へそれぞれ悪化。「繊維・同製品」、「食料品」は「小雨」が続く見通しとなっている。

【図表 1】

	25				26				27	来 期 見 通
	4－6	7－9	10-12	1－3	4－6	7－9	10-12	1－3	4－6	
全 体	 ▲19.4	 ▲16.2	 ▲7.7	 2.9	 ▲3.2	 ▲12.6	 ▲13.0	 ▲14.0	 ▲20.1	 ▲6.5

※景況天気図は「売上高」「収益性」（前年同期比）のD I 平均値を下記の基準に当てはめたもの。



【図表 2】

